令和元年度第２回東京都後発医薬品安心使用促進協議会　議事概要

１　日　時　　令和元年１１月１２日（火曜日）午後５時５７分～午後７時４５分
２　場　所　　東京都庁第二本庁舎３１階特別会議室２２
３　出席者（五十音順）
岩野秀夫委員、小川聡子委員、小野俊介副座長、加島保路委員、加藤英二委員、加藤尚章委員、金内幸子委員、阪柳俊春委員、佐瀬一洋座長、寺井伸二委員、鳥居明委員、鳥海孝治委員、永田泰造委員、松田妙子委員、元田勝人委員、山中一郎委員、吉井栄一郎委員、田中俊幸様（関係者）

４　主な発言内容
（１）後発医薬品（ジェネリック医薬品）に関するアンケート結果（速報）について
（金内委員）薬局や保険者、メーカーの取組によりだいぶ患者に浸透してきた。
（永田委員）医師や薬剤師は、安定供給に不安感があることが出ている。効果については個人差もあるが、患者が不安感を持っていることも出てきた。
（鳥居委員）医師は社会保障維持の必要性は理解しているが、後発医薬品に対する不安感も残っているのではないか。
（阪柳委員）歯科は慢性疾患に対する投薬は少ない。処方箋は一般名処方で書いて、あとは薬局にお任せしている。調剤した薬は、薬局から情報提供が来たり、お薬手帳で確認したりしている。
（佐瀬座長）患者が持ってきたお薬手帳で調剤された薬を確認するなど、患者を中心にいい方に進んでいるというのが出ていると思う。キーワードはコミュニケーション。
（鳥居委員）後発医薬品は名称が長い。患者は先発品名を覚えているが、後発品名を覚えられず、自分の飲んでいる薬が分からないという問題がある。医師も一般名は覚えるのは難しい。一般名の後に先発品名を括弧書きで書いていただくと、医師の現場での混乱や患者が何を飲んでいるかわからないという状況が解決すると思っている。
（永田委員）お薬手帳の活用に関して、現在、一般名処方のあとに二重括弧後書きでどの先発品に該当するか書くことができるレセコンメーカーもあるが全てではない。改善するように働きかける必要があると思う。
（佐瀬座長）名称は、医師も薬局も同意見であるところ。コミュニケーションを円滑にするうえで、報告書を発表するときに工夫していただきたい。
（吉井委員）名称のつけ方に決まりはあるのか。
（佐瀬座長）厳格なルールがあって、一般名の名称の一部を聞いただけで、成分や効能がわかるようになっている。以前は紙で管理していたが、現在は、PMDA のホームページで最新のものが閲覧できるようになった。
（松田委員）取り巻く状況について、患者は知らない。病院や診療所からしっかり説明してもらわないと、患者は難しいと思う。後発医薬品に関してしっかりした状況であれば、患者も安心である。
（岩野委員）後発医薬品の利用が広がるように、保険者は差額通知や希望シールの配布に取り組んでいる。

（鳥海委員）多くの保険者は、医療費の増大等々の中で効率化を図るため、差額通知及びその効果検証などに取り組んでいる。ジェネリックに変更したきっかけは薬局からの説明が多いという結果であるため、きめ細やかな説明をされていることと思う。医療機関向け手引き（案）は、薬局や医師の不安感を踏まえて、総合的に推進する良い方法を考えていただけると良い。

（永田委員）保険者の差額通知は有効であるため、ぜひ続けて欲しい。

（鳥海委員）引き続き続けていく。2020 年の 9 月に 80%の使用割合達成という目標があるため、お互いに連携して取り組んでいけたらいいと思っている。

（２）関係者の取組紹介について

（鳥居委員）後発医薬品が成長著しいということが良く分かった。安心、安全、安定供給の取組は、医薬品は当然のことだと思う。情報提供については、患者や薬剤師とのコミュニケーションは非常に良いと思うが、診療所の医師に対するコミュニケーションが少し欠けているような感じがする。今回、ラニチジンの問題があったとき、ジェネリック医薬品のメーカーからは情報提供がなかった。

（関係者）情報提供については、後発医薬品メーカーの MR が少ないため、卸にご協力いただき、一緒になって取り組んでいきたい。ラニチジンの件は、後発医薬品メーカーが多いため、足並みを行政に振り回されたところもあるが、今後は、行政ともコミュニケーションをとりながら、対策をとっていく。

（加藤（尚）委員）供給停止になるジェネリックが毎年 300 品目くらいあるため、卸としては、最も安心して扱える品目をある程度絞り込んで情報提供する必要があると思っている。安定供給に関しては、数年すればだいぶよくなるような話もあったため、それまでは最も重要な役割を務めていきたい。

（佐瀬座長）いただいたパーフェクト BOOK に病気のことを加えられると良い。実際に薬を使ってそこから価値が出てくるので、そこを上手に加えられると良い。

（小野副座長）全体の話になるが、国際比較では日本は薬事承認など、とてもいい状況にあるということがどこかに分かるようにいれられると良い。

（３）医療機関向け手引きの作成について

（佐瀬座長）本日のテーマはコミュニケーションだと思う。診療報酬上の金額面だけではなく、品質や効能・効果に関すること、しっかり薬事承認されていること、PMDA のホームページなどで一般名やジェネリックなどもきちんとわかるということ、コミュニケーションのツールとしての機能も少し入れられると良い手引きになると思う。